PIIA Knots
Public Interest Incorporated Association
公益社団法人ノッツ
Knots NEXT 'One World, One Life'
公益社団法人Knots ノッツ・結び目
WEBサイトhttp://knots.or.jp

〔今号のメッセージ〕

- 公益社団法人Knots（結び目）は、「人と（ヒト以外の）動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。
- Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

公益社団法人日本動物福祉協会
顧問　獣医師　**山口千津子**

まだまだ、浸透していない同行避難

今年は1月1日に能登地方で大きな地震があり、めでたさもいっぺんに吹き飛んでしまいました。

3か月半以上たってもまだ断水しているような状況が続いています。

そんな日本には、家庭動物、農業動物、実験動物、展示動物等多くの動物が飼育されており、彼らもまた、災害の影響を大きく受けます。

飼育者は自分たちのための災害対策とともに、手元にいる動物の災害対策もしなければなりません。

ここでは身近な犬や猫、ウサギ等のペットの場合を見てみたいと思います。

ほとんどの飼い主は、大切な家族である彼らと一緒に避難したいと思いつつも、避難所に連れて行ったら、みんなに迷惑をかけるのではと遠慮をしてしまいます。避難所設置運営体も、動物の受け入れを断るところがほとんどでした。

しかし、今までに起きた大きな災害時には必ず、共に暮らす動物を残しては避難できない、と拒まれる方がおられました。

人を助けようと思えば共に暮らす動物たちも助けないと、人を助けることはできないことを痛感し、東日本大震災以降、国や自治体も、緊急災害時の同行避難のガイドラインを出し、平時からの準備や災害時の同行避難を促していましたが、能登半島地震の事例を見ますと、まだまだ、飼い主にも受け入れ側にも浸透していないと思いました。

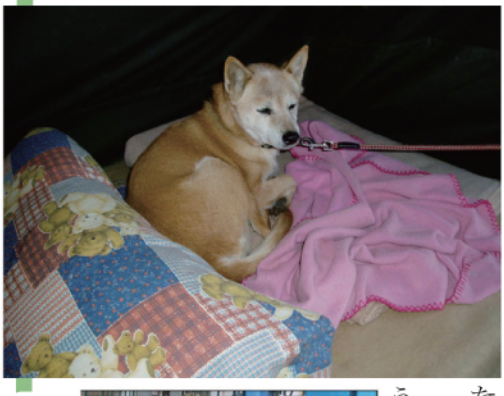
東日本大震災の時には、団体や自治体、環境省が残された動物たちを保護しましたが、それでも動物たちが野生化したり、死亡したりで、公衆衛生上の問題が起こりました。

人と動物が共に幸せに暮らす社会を築くには、緊急災害時の対応が欠かせません。

それにはまず、命を預かる飼い主の責任として、普段から、動物たちの健康管理（犬や猫等の不妊去勢手術も）、衛生管理、行動管理、人用とともに、動物用避難グッズも準備しておくこと。

同行避難できないような種類の動物（例・野生動物）飼育や、多頭飼育はしない等、緊急災害時のことを頭に置いた飼育管理が大切です。

そして、各地区で、平時に避難所設置運営する方々と、動物の受け入れによる問題点や解決策について話し合い、どのような形で動物を受け入れるのか、その場所、ルール等を決め、毎年シミュレーションしておくことが重要です。



東日本大震災避難所の、渡り廊下に共に避難してきた犬たち。飼い主が世話をする。

熊本地震避難所に被災ペット用のペットフードやペットシーツが置かれていた。持ち帰りフリー。